

# 節税レポート



平成 21年 12月号

発行日 2009.12.1

## 今月のテーマ 見て分かる不足資金分析図

### 不足資金分析図

(株)サンプル  
貸借対照表

借方 (使途)		貸方 (資金の源泉)		
	百万円		百万円	
29	売上債権	29	買掛債務	23
13				11
5				34
47				C
A	棚卸資産	13	その他流動負債	11
	その他流動資産	5	<短期資金不足	25
	現金 預金	16	短期借入金	
			長期借入金	20
28	有形固定資産	28	<長期資金不足	
9				
37				9
B			資本金	9
				12
	投資等	9	剰余金	12
				21
				D

## I 不足資金分析図について

簡単に資金の状態が掴めます。

- 1 これは貸借対照表ですが、普通の貸借対照表と少し違います。普通の貸借対照表では左側(借方)は上から順に次のようになっています。

### 流動資産

現金預金

売上債権 (売掛金、受取手形)

棚卸資産 (商品、原材料等)

その他流動資産 (前払費用、未収入金等)

### 固定資産

有形固定資産

投資等

この図では、現金預金が現金預金以外の流動資産(A)と固定資産(B)には含まれています。

こうすることによって資金の状態が見えてくるのです。

- 2 貸借対照表の右側(貸方)は、会社の資金の源泉です。会社がどこから資金を調達しているか?を表します。
  - 1) 株主から調達したのが資本金
  - 2) 金融機関等から調達したのが、短期、長期の借入金
  - 3) 買掛金、未払金は仕入先等へ支払っていない額を表します。これも仕入先等から借入してるのと同じです。

- 3 貸借対照表の左側(借方)は資金の使いみちを表します。
- 1) 流動資産(A)は短期(決算後1年以内)に回収(現金化)が見込まれるものです。  
逆に、今すぐ支払手段としては使えません。右側(貸方)で調達した資金が流動資産(A)の形で固まっているのです。
- 4 今度は貸借対照表の右側(貸方)の上の方を見てみましょう。

買掛債務 (支払手形、買掛金)  
その他流動負債 (預り金、未払金、仮受金等)

これらは流動負債(C)です。これらは短期(決算後1年以内)に支払予定の債務です。  
つまり債権者から借りているお金です。

回収出来ていない資金 流動資産(A)と  
借りている資金 流動負債(C)とを比較しますと流動  
資産(A)が多くなっています。  
つまり流動資産(A)と流動負債(C)の差額が短期の資金不足  
となります。  
この不足額を短期の借入金で補います。

- 5 次に貸借対照表の左側(借方)の下の方を見てみましょう。

有形固定資産  
投資等

これらを固定資産(B)と呼びます。サンプル社では、ここに37百万円使われています。固定資産(B)の資金源は資本等(D)で賄います。  
サンプル社では固定資産(B)が資本等(D)より多くなっています。これらの差額分だけ長期の資金も不足します。  
固定資産(B)の回収(現金化)に時間がかかりますので、不足資金は長期の借入金で賄います。

## 6 サンプル社の資金不足額は

短期資金の不足	13 百万円 ( 47-34=13 )
長期資金の不足	16 百万円 ( 37-21=16 )
計	29 百万円 となります。

サンプル社は取扱商品に独自性があるので、金融機関の信用も篤く、短期、長期合わせて 45百万円の借入が出来ました。

その結果 資金不足額 29(13+16)百万円をカバーし、なお現金預金 16百万円残っているというのがこの表の見方です。

$$\begin{array}{r} \text{借入金} \\ ( 20+25 ) \end{array} - \begin{array}{r} \text{資金不足額} \\ ( 13+16 ) \end{array} = \begin{array}{r} \text{現金預金残} \\ 16 \end{array}$$

現金預金を流動資産と固定資産の間に移動しただけですが、会社の資金状態が非常によく分かります。コロンブスの卵と同じです。

皆さんも自社の貸借対照表をこのように作り替えてみては如何でしょう。資金状態がよく分かりますよ。

この不足資金分析図は「いちばんやさしい経営分析」後藤弘著 税務経理協会 を参考にさせて頂きました。

## II 資金不足に陥らないための対策

不足資金分析図を見れば、資金不足に陥らないための注意点が見えてきます。

1 流動資産(A)をおさえましょう。

1) 売上債権を早期に、確実に回収すること。

普段から債権管理を行い、回収期日に回収されてるかどうか、チェックしましょう。

2) 在庫を出来る限り圧縮すること。

不要、不急の在庫をもたない。  
滞留在庫になりそうな商品は早めに処分してください。

2 固定資産(B)を圧縮すること。

1) 不要な投資を行わない。

2) 遊休資産を処分し、現金化しましょう。

3 流動資産(A)と流動負債(C)とのバランスをたもつ。

売上高が伸びている時期には、流動資産(A)が大きくなりがちです。  
仕入先との交渉により、支払条件を延ばしてもらい、流動資産(A)と流動負債(C)との差が大きくならないようにしましょう。

差が大きくなると不足額も大きくなるのですから。

4 なんとんでも利益を上げること。

そして剰余金を増やすことです。これにより返済しなくとも良い資金—資本等が増えます。